

神石高原の

いきいき農業

【基礎講座】

この時期はナタネ梅雨とも言われ、くもりや雨が続いて農作業ができなくなることがよくあります。水田の植付け準備、畑の土づくりと植付け準備、水稲や野菜の育苗作業など、これから農作業が忙しくなりますので、晴天が続く時期に早めにとりかかしましょう。

【今月の作付け】

種まき…なす、ピーマン、はくさい、アスパラガス、アスパラガス、ホウレンソウ、チンゲンサイ

【果菜類の育苗】

五月の連休頃に植付する果菜類の育苗が始まります。なす、ピーマン、トマトなどナス科野菜は三月上旬から中旬に、すい

か、かぼちゃ、きゅうりなどウリ科野菜は四月上旬に種まきをする。ちょうど良い時期になります。

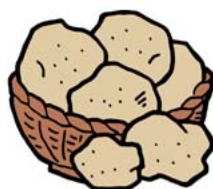
種子をまく前に、水に一昼夜ぐらゐに浸けてしっかりと吸水させ、濡らした布にくるんで芽出しします。以前は腹巻の中に入れて体温で温めることもありましたが、最近は育苗機などで加温する人が多そうです。

芽が出始めた種子は、地温二五℃に温めた土にスジ状にまきます。覆土は種子が隠れる程度に軽く行い、乾燥防止に不織布か新聞紙を掛けます。発芽したら日光をしっかりと当てるようにしましょう。

双葉がひらき、ナス科野菜は本葉二〜三枚、ウリ科野菜は本葉二枚がひらいたころに、育苗ポットに鉢上げします。

【じゃがいもの品種】

春はいいしよの種芋いもは、北海道で採種されたメークイ



ン、男爵などを使用するのが一般的です。最近では、キタアカリ、アンデス赤など、これまでと少し違う品種が出回るようになってきました。

キタアカリ―目赤、黄肉、肉質は粉質、ビタミンCが多い。レンジ加熱でもおいしい。

アンデス赤―赤皮、黄肉、カロチンが多い。サラダなどに向く、新感覚のじゃがいも。

但し、じゃがいもの自家採種を続けていると、固有のウイルス病が急激に増加し、周辺にも蔓延してしまします。ウイルス病防止のため、種芋いもの更新を進めましょう。

自治振興会

視察研修会

二月二十二日・二十三日の二日間、愛媛県双海町と高知県津野町で視察研修会をおこないました。

双海町では、若松教育長からまちづくりの基本は「子ども達が自信をもって自分の町を話せるようまちづくりである」との講演を聞かせていただきました。

また、津野町床鍋「森の果箱」運営委員会の大崎会長は、原点は「いつまでも生まれ育ったところを暮らしたい」という思いであり、地域にお店がないからコンビニを、悪いの場として喫茶店・居酒屋をとボランティアに近しいとは言われていましたが、すべてを地域で運営されていることには驚きました。

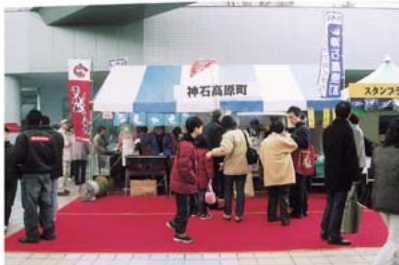


神石高原のおいしさをお届けします!!

2月26日(土)・27日(日)の2日間、広島市の県立総合体育館において「フードフェスタ広島2005」が開催されました。県内の多くの特産品が集まるこのイベントは晴天に恵まれ、2日間で24万6千人もの来場者で賑わいました。神石高原町からは、漬物・こんにゃく・味噌・もち・乳製品・トマト加工品などを販売し、屋外ではしゃも地鶏の串焼き・手づくりこんにゃく・そば・神石牛の丸焼きを実演販売しました。合併後初めての大きなイベントでしたが、4地区が力をあわせて



て出店品をほぼ完売しました。広く神石高原町のPRができました。



けんみん文化祭

けんみん文化祭ひろしま04福山地区フェスティバルが、二月十三日(日)、府中市文化センターで開かれ、町内からは五団体が出演しました。やまびこ太鼓(神石文化協会)はオリジナル曲「鼓響」を力強く披露。大正琴琴成流(油木文化協会)は冬のソナタの話題曲などを演奏し、会場を魅了しました。つづいて、油木神楽保存会の「大蛇退治」や、なごみの会(三和文化協会)の新舞踊「華扇」、グリーンエコーズ(神石文化協会)は「夜明けの歌」など歌声を響かせ、客席からは会場がわれんばかりの拍手が送られていました。